

# 次期総合計画の意義について

## 1 計画策定の趣旨

県民一人ひとりをはじめとした多様な主体が、岩手の未来のあるべき姿に向かって、今後10年間に何をすべきかを考えるとともに、みんなで力を結集し、行動していくための目指す将来像や取組の方向性を明らかにする。

### 計画策定の特徴

- 地元の底力と様々なつながりを最大限に活用

計画策定過程において、県民、市町村、各種団体、県外の個人や団体など、あらゆる主体に意見を求める。

- オールいわて総結集のプロジェクト

「希望郷いわて国体・大会」の盛り上がりとしガシーを引き継ぎ、計画策定過程において、県民の関心を高め、多くの参加を求める。

## 2 計画の役割

岩手の未来のあるべき姿を実現するため、復興とその先も見据え、時代の潮流や岩手の特性・可能性を踏まえながら、今後10年間の、

- 県の政策推進の方向や具体的な取組内容を示すもの

- 県民、企業、NPO、行政など地域社会のあらゆる構成主体が自ら取組を進めていくためのビジョンともなるもの

## 3 計画の期間

平成31年度（2019年度）を初年度とする10年の計画とする。

## 4 計画の呼称

計画の決定・公表時においては、県民がより親しみやすい名称を付すこととし、当面の呼称を「次期総合計画」とする。

## 5 岩手県東日本大震災津波復興計画(計画期間:平成23年度～30年度)との関係

次期総合計画においても復興の取組を明確に位置付け、市町村や国と一体となった切れ目のない取組を進めていく。